



① 1



② 2

今回の第28回静岡県すこやか長寿祭スポーツ・文化交流大会から大会名称に「文化交流」の文言が追加されたのですが、その名称に相応しく新種目となった「俳句」の静岡県大会を取材してまいりました。開催会場は静岡県男女共同参画センター「あざれあ」です。(写真①②)



③ 3



④ 4

静岡県俳句協会主催の平成29年度(第31回)静岡県俳句大会が堤信彦副会長の挨拶で始まりました。(写真③) 会場には各賞受賞者や大会関係者が多数集まりました。(写真④)



⑤ 5



⑥ 6

会長の甲斐遊糸さん(写真⑤)同席のもと、副会長兼事務局長の青柳八風さん(写真⑥)の司会で大会が進められます。

静岡県俳句協会は昭和35年発足といえますので50余年を経過し、当時全国の自治体としては初の集まりであったようです。現会員数は432名で、平均年齢は71歳とのこと。



⑦

7



⑧

8

大会は静岡県俳句協会理事である恩田侑布子さんの講演からスタートです。演題は「切れてつながる俳句」。恩田さんは平成28年度第67回芸術選奨文部科学大臣賞文学部門で受賞されており、今回の講演では俳句の精神性とその奥深さを様々な角度からお話されました。(写真⑦)

大会後半は各賞受賞者の表彰式が行われました。

まずは第7回静岡県俳句文学賞です。あるテーマについて20句の俳句を寄せた一つの作品ごとに選考されます。今回は21の応募作品の中から、7名の審査委員がそれぞれ俳句文学賞に相応しい1作品に5点、準ずる4作品に2点ずつ配点します。

今回最高得点にて俳句文学賞を受賞したのは戸塚きゑさん(浜松市南区)の作品「海眺めみて」です。7名中6名の審査員から得点を重ねた堂々たる受賞でした。(写真⑧)



⑨

9



⑩

10

俳句文学賞準賞は中川正男さん(浜松市北区)の作品「脇街道」です。(写真⑨)

今大会から新たに設けられた第1回静岡県俳句新人賞は16の応募作品の中から、安立由美子さん(浜松市中区)の作品「日日」が受賞されました。(写真⑩)新鮮な詠みぶり、季語の定着、俳句を楽しむ態度等が評価されたようです。



⑪

11



⑫

12

そしていよいよ静岡県俳句大賞(県知事賞)の表彰です。306の応募作品の中から、20名の選者

がそれぞれ俳句大賞の特選(3点)として1作品ずつを選び、準ずる作品には入選(1点)として20作品選びます。

見事、最高得点を獲得し俳句大賞を受賞されたのは川崎文代さん(島田市)の作品です。

遠蛙

記憶の底の
いくさ歌

川崎文代

[俳句1](#)

甲斐会長からは県知事賞の表彰、しずおか健康長寿財団からは俳句大賞の表彰が行われました。(写真⑪、⑫) おめでとうございます!



草笛や
たちまち子らの
真ん中に

磯田なつえ

[俳句2](#)

⑬

[13](#)

得点2位の磯田なつえさん(静岡市葵区)には静岡県俳句協会賞が贈られました。(写真⑬)



寄せ書きは
たてよこ斜め
烏雲に

戸塚きゑ

[俳句3](#)

⑭

[14](#)

得点3位の戸塚きゑさん(浜松市南区)には静岡県俳句協会会長賞が贈られました。(写真⑭) 戸塚さんは俳句文学賞とのダブル受賞となりました。

上記受賞者の3名は9月に開催される第30回全国健康福祉祭あきた大会(ねんりんピック秋田2017)の俳句交流大会代表者として選出されました。川崎さんは静岡県代表として、磯田さん、戸塚さんは政令指定都市静岡市、浜松市の代表として出場されます。ご活躍を期待しています。



⑮

15



⑯

16

その後も優秀賞や奨励賞などの表彰が続きます。(写真⑮)

表彰式後の講評会では甲斐会長から総評がありました。(写真⑯)
「今回から設けた俳句新人賞は古きも新しきも重んじる静岡県俳句協会らしい企画として今後も大切に育てていきたい。私が特選として選ぶ基準は、抒情も大事だが、写生がなくてはならないこと。思いを述べるとは物を述べること。そして、何のために俳句を作るのか・・・それは生きてきた証とすることです。」と述べられました。長い人生経験と豊富な知見に裏付けされたお話は心に響くものがありました。

最後に堤副会長の閉会の挨拶でこの日の大会は終了となりました。

この日の取材により、俳句仲間の集まりをほんの一時覗かせていただくこととなったのですが、俳句の世界の抒情性、精神性、哲学的な深さを垣間見た思いです。人生経験豊かな高齢者の皆さんが集い、思いを発露し合う場として大変有意義な催しであると感じました。

一方、TV番組「プレバト」では、芸能人の俳句作品を俳人の夏井先生が辛めの評価をし、添削する内容が注目を集め、人気となっています。バラエティー番組とはいえ、若い世代にも俳句を身近なものにした意味では貢献度大ですね。

「静岡県すこやか長寿祭」の目指す、“高齢者をはじめ広く県民の参加を得て、スポーツ・文化活動を通じてふれあいと交流を図る”ためにも静岡県の俳句界が益々盛り上がりそうですよう期待しています。

取材：静岡地区担当 生きがい特派員 竹内 章